正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第３５４回

ナポレオン・ヒル

の名言

発　　行：入試広報室
発 行 日：令和５年４月２０日
編集委員：入試広報室 鈴木

オリバー・ナポレオン・ヒルは、アメリカ合衆国の自己啓発作家。成功哲学の提唱者の第一人者の一人であり、『思考は現実化する』の著者。

今回の言葉

Opportunity often comes in disguised in the form of misfortune, or temporary defeat.

チャンスは、不運や一時的な敗北という姿に化けてやってくることがある。

Column

今回の言葉は非常に勇気を与えてくれるものだから胸に刻もうと感じながら、例えば部活動で大会前の練習試合で全く手応えが得られない時や、勉強で睡眠時間を削ってギリギリまで勉強をしても試験で全く目標に届かない判定を受けた時など、完全に“焦り”を感じている時に、果たして“これは一時的なものだ”と冷静に捉えることができるでしょうか。おそらく“一時的”という言葉にあるメッセージとして“諦めない限り、きっとチャンスはまた訪れる！”というものがあるとは思います。また、厳しさを持って考えれば『ピンチの時こそ切り替えられないようではチャンスなんて訪れない！』という“もっとできる！”というメッセージが込められていると思いますが、現実を突きつけられた瞬間に“これは大会で勝つための試練！”“おかげで受験本番の前に気合い入った！”と自分の中で切り替えられる冷静さが残っているとは思えず、不安を抱いてしまいました。

ここまで述べてきた中で、私の感想は落ち込んだ瞬間にしかフォーカスできておらず、全てはチャンスが訪れた時に力を発揮できる自分でいるための“準備”であり、それは常に意識するべきことなのだと気づきました。そういう意味では例に挙げた目先の目標や努力する必要性が明確なことだけではなく“人生を豊かにする”といった壮大なスケールの話にも繋がると思います。そのスケールが大きければ大きいほど、到達へのヒントは日常の小さなことにあるのかもしれません。人にかける言葉や態度もそうです。“なんで自分ばかりが…”と自分本意な考え方が原因でと心のコンディションが乱れ、自分の意見を主張したつもりが八つ当たりと捉えられたり、威圧的な態度で人に嫌な思いをさせたりと、実は誰かに甘え、誰かを我慢させているだけなのかもしれません。時には仲間に寄りかかることも自分を守る上で重要なことですが、どう寄りかかるかを考えることはもっともっと重要なことです。心が乱れた時に“チャンスの神様に試されているのかな？”と一旦深呼吸できるだけの余裕を身につけ、仲間とともに最高のチャンスを引き寄せていきたいものですね。